



今冬は? 3月に大震災があったからか、慌しく仕事をしている間に

もう師走。まだ厳しい寒さはありませんが、いつものように11月下旬には奥美濃の山々が冠雪。昨冬は比較的雪が降りましたが、今冬はどんな寒さになるのでしょうか? 「森のすみか」展示場は薪ストーブ1台で大空間を暖めています。その薪ストーブも今年で10シーズン目。炎の温もり、安らぎ、癒しは格別です。是非、お気軽にお立ち寄り下さい。



やります! 冬のエコ・コン 2011年夏のエコ・コンテストの結果発表も遅れてしまい反省の極みです。本当にすみません。しかし、節電に取り組みながら寒さを乗り切るために、冬もエコ・コンを行います。1月と2月の光熱費と使用量から環境家計簿で計算、そしてエコ工夫を募ります。12月から全国9電力管内で、企業や一般家庭を対象に政府による節電要請(3月末まで)が始まりました。冬は一日を通して電力が使用される傾向があり、特に朝9時と夕方17時にピークがあるようです。ピークの時間が短い夏より長丁場の節電が必要となります。冬の節電は、暖房と照明の使い方がポイント。エアコンの設定温度を2度下げると電力を7%減、照明時間を1/4減らせば4%減になります。多くの皆様のエコ工夫をお待ちしています。(後日応募用紙郵送します)



**“ありき”ではなく
“ない”からの発想**

今何? と言えば、国民投票の声が徐々に大きくなってきている「原発」でしょう。テレビ朝日では原発の国民投票を特集にした「通販生活冬」のCMを拒んだが、朝日新聞の社説

では国民投票支持を大いに謳い、他紙も触れた。震災以降、原発に関連する政治・企業・地域・お金などいろんなことが今まで以上に表にでてきているが、最近、今回の地震の規模・エリアの想定はあったがその対策はなされなかったことも明るみに出た。事故になると未曾有の惨事となるため、万一のケースを考えることがタブーとされた虚構の安全神話が、今までの事故の隠蔽、改ざんを導いてきた。3・11の後に原発大国の仏国で起きた事故も、その時以外はほとんど表に出ていない。私たちは知らず知らずのうちに、便利なモノ・暮らしと引き換えに、大量の電力・エネルギーを消費している。しかも、省エネと思い込みながら。稼動している原発が少なくなっている今、それでも十分に生活ができるのであれば、研究・運転・処分にお金のかかる、そして事故となれば甚大な被害を起こす原発に頼らなくてもすむのではないか。そして“ありき”には「エアコン」も当てはまる。今秋、自立循環型住宅研究会主宰の野池政宏さんが、エネルギー消費量と電力消費量が今の1/2の1985年に戻そう!と「Forward to 1985 energy life」運動を立ち上げられた。以前お話を伺った際に、ご自宅には(大阪)エアコンがなく、どんな暮らし方・工夫をすれば夏冬が暮らせるかをデータを取りながら実践していると。断熱・気密を高め、数字上の効率と快適を上げるのが自立循環型住宅研究会の印象でしたが、それを聞いて払拭。さらに、「エアコンありきではなく、ないからこそ、いろいろなことを考え、試し、そして智慧を絞る。それが楽しい。」と、本庄のエコ・コンの参加者の方と同じ発言**“ない”からの発想が楽しい!**



頑張ろう! ものつくり日本! 数年前のヒット曲「陽はまた昇

る」でも「頑張れ日本! 凄いぞ日本! 頭のいい国日本! シャープペンシル・新幹線・胃カメラ・カラオケ・青色ダイオード考えた!」と歌われた、ものづくり日本。しかし先般のニュースで違和感が。家電量販店大手5社(ヤマダ、コジマなど)の中間決算は、売上げは多少の増減だが、過去最高利益が続出。エコポイント制度や省エネ家電やスマホブームが追い風になった。一方、大手電機メーカー8社(パナソニック、東芝、日立など)では、全く反対の前年比大幅減で赤字も多い。家電量販店で売れているのは、安い海外メーカー品なのでしょう。日本の電気メーカーのコストダウンの取り組みがまだ足りないのか? 研究開発した技術が海外で真似されたのか? 日本の人件費の問題なのか? いずれにしても、安いものを集めてきて売る量販店と買う消費者は利益を生む。しかし、安いには安い何らかの理由がある。機械モノだけに故障もつきもので、いざとなった時に苦勞するのは消費者(本当は量販店に責任感のあるアフターを期待したいところですが・・・)。まわりまわって自分に不利益がまわってくる。現在、国内の様々な分野の製造業(ものづくり)が空洞化していて、経済も雇用も今より更に悪化の懸念がある。とにかく安ければ良いという多勢に対し、「いいもの」を大切に長く使って、「長い目で見れば安い」という価値観は少数派。しかし、そんな消費の仕方では日本が守れない。私たちの岐阜、東海、そして日本には「いいもの」が沢山ある。消費の仕方を見つめ直さないと、ものづくり日本の未来は見えてこないのではと思います。本庄の、「岐阜の木の家」の考えも取り組みも同じこと。本当に「長い目で見て安心・納得・満足」と伝わり、実感して頂けるように頑張っていきたいと思います。



最近のホームサービスから



「年末に向けて」



2011年もあと20日余りで終わろうとしています。大掃除は進んでいますか？得意な方、苦手な方、時間がある方、無い方・・・様々だと思います。今回は、大掃除をうまく切り抜ける方法をご紹介します。

① 大掃除の計画を立てる・・・

12月はあっという間。無理なくムラなくお掃除を進められるよう、計画的に進めましょう。外に面した窓を徹底的にきれいにしたい。普段お掃除しているところは軽めにするなど、メリハリをつけましょう。時間配分と優先順位をはっきりさせ、掃除する場所と順序を決めましょう。

一日での掃除は大変。自分が動ける日と掃除内容・量を比べていつから動けばいいか掴みましょう。

② 掃除道具と洗剤の確認

いざ始めようという時に洗剤や掃除道具がないとやる気が半減。事前に、台所用洗剤、住居用洗剤、クリームクレンザー、カビ取り用洗剤、トイレやお風呂用洗剤、漂白剤、ワックス等の有無をチェック。また古くなったタオルや使い古しの歯ブラシも多めに準備。ナイロンたわし、スポンジ、つめブラシ、先をへら状に斜めに削った割り箸などは、キッチンのお掃除にあると便利です。古新聞は窓ガラス磨きや養生シート代わりに、綿棒は細かいところやオーディオ、パソコン関係のお掃除に重宝します。どこをどのように掃除するのか、前もって準備をしておきましょう。掃除道具チェック表を作成して足りないものはホームセンターへGO！

③ 家族で協力

一日でできることには限界があります。家族で、それぞれ分担して出来ることをしましょう。子供たちには身の回りや安全なことを中心に、力仕事に強い男性には大きな面積の窓ガラス磨きやお風呂掃除などを。体を使ってするお掃除はきれいになったという満足や達成感が味わえ、家族の連帯感が生まれるのではないのでしょうか。

④ 洗剤や道具は適材適所で効果的に

台所用、お風呂用、トイレ用など、様々な洗剤があります。その場所の汚れの成分によって使用する洗剤の成分が異なります。最適な洗剤と道具の組み合わせで効率良く汚れを落としましょう。油汚れは酸素系漂白剤のつけおきをするのとあとで落としやすくなります。カビやタバコのヤニもきれいに！そして楽に落とせる様、つけおきや湿布法（レンジ回りなど、しつこくこびりついた油汚れには洗剤を塗って、キッチンペーパーやラップで湿布）などを活用して時間も短縮しちゃいましょう。



掃除中にすまいの点検も同時に行うとより効率的です。

- ・外部：屋根瓦のズレなどの異常はないか、樋の金具は大丈夫か、外壁に傷みはないか、雨戸は閉まるか、網戸や外部建具の動きはスムーズか、網戸の破れはないか、基礎に蟻道（シロアリの作った道）はないか。
- ・内部：内部建具の動きはスムーズか、障子や襖の破れはないか、トイレ・キッチン・洗面などの水回りに故障はないか、床下の状態は良いかなど。
- ・本格的な冬に向けて：凍結、雪害に備えましょう。

キッチンの困りモノ 換気扇のお手入れの一例



小麦粉や重曹などを万遍なくまぶし、指で擦れば・・・サラサラのツルツルに。匂いも手あれもありません。

★住まいの不具合・ご質問等ございましたらいつでもお気軽にご連絡下さい。

ホームサービス専用 Free Dial 0120-71-6527 《365日 24時間 電話対応》

ちょっと になる話

今春京都に行った折、銀閣寺と清水寺の二つの国宝を15年ぶりに見学しました。特に見たかったのが、あの“清水の舞台”の床のつくり。普段からウッドデッキや木のベランダをつくりながら気になっている、腐朽対策やメンテナンスをウッドデッキの絵本山 清水寺ではどうしているか？見たかったのです。



ご存知の通りこの舞台には屋根がかかっている場所とかかかっていないところがあります。その違いで床の勾配に相違があります。屋根がかかっているところは傾斜がきつく、水の流れをよくしています。床板材は無塗装の桧。何と厚みが10cm、幅が30~60cm。板

「“清水の舞台”の床板」

と言うより柱か梁のような材料。木口をチェックすると年輪の目がとても密で、産地は木曾などの寒いところでしょう。さらに、床板の死に節は節補修してあるし、脳天から（上から）クギやビスなどで留めてある部分が一切見えません。ただ、やはり板の割れは生じているので、いつかは取替えが必要に。取り外しができ尚且つ水のキレもよい造りがわかりません。20年毎の取替えが見てみたいです。



この舞台は、巨大な樫丸太柱に梁のような巨大な貫を縦横に通して、楔（くさび）だけで留める造りです。南側の貫の天端や端部の木口には雨で濡れにくいように木の板の屋根が掛けてありました。

本庄のデッキのつくり方も、勾配を取る、屋根がかからないベランダのデッキはなるべく上からクギを打たない、板の隙間を確保、梁に板金を被せるなどの工夫を重ねながら、少しでも水のキレ、乾

燥をよくして耐久性を高めるように進化しています。ただ自然素材であり、メンテナンスをしても、大きな（手間も費用も）修復作業が必要になる時はいずれきます。木という素材は、腐朽するという短所もある反面、処分する時は比較的簡単であるという長所もあります。私たちは、木の短所をできる限り抑えつつ、より長所を活かせるようなことを考えています。



舞台の足元となる巨大樫丸太柱の根元には、腐った部分を切り新しい材に入れ替

える“根継ぎ”が多く見られました（先に見た銀閣寺の柱にも根継ぎが彼方此方に）。これ程大きく、重い建物を支える柱の部分取り替えができるのが木の良さであり、大工技術の素晴らしさと実感。さらに、この樫の柱は急な斜面の石の上に乗っているだけ！それで380年持っているとは！シンプルに水を流し、傷みや不具合を見やすく、気付きやすくすることの重要性を感じました。

ちょっと になる話

日本中で節電が叫ばれた今夏の「本庄のエコ・コンテスト」の結果を紹介いたします。コンテストの参加家族は18（初参加4）で、12家族が連続参加でした。順位は環境家計簿による、①エネルギー削減率、②CO₂削減率、③光熱費削減率のランキング合計になります。①の上位5位までのご家庭は、一般家庭より45%~73%、②では45%~74%、③では55%~169%も削減しています。（もう少し詳しいデータは森のすみかにあります。）

「エコ・コンテスト2011夏から」

『楽しい夏のエコ工夫』の一部紹介・・・

■緑のカーテン・・・ゴーヤ、インゲン、風船かずら、ヘチマ、キュウリ、朝顔、自然薯・・・ ■日射遮蔽・・・すだれ、「エコ雨戸」で防犯もバッチリ ■屋内の風の通り道を研究 ■電気を使わない料理の工夫 ■シリコンクックポットで野菜を手早く調理 ■夏野菜を食べる ■水遊び・水風呂 ■外でよく遊び動き、夜早く寝る ■停電ごっこ・・・

ある夜3時間停電した際のロウソクと懐中電灯の時間が楽しくて、ごはんやおしゃべりを暗い中楽しむ遊びが流行ったご家族も。電気のない不便さの中でも楽しみを見出すということがよかったです。

「エコ・コンテスト2012冬」も行います。楽しいエコ工夫沢山お待ちしております！

コラム

『汎用品』と『嗜好品』



岐阜県銘木協同組合で開催された『全銘展』に出品されたケヤキに頭を突っ込んでみました。普段扱っている郡上の並材とは違うケヤキの大径木がワンサカと溢れた中でも、一際大きなケヤキの洞に頭を突っ込んでおどけてしまいました。中から大判・小判がザックザクと出てくるのではないかと覗き込んでいるわけではありません。しかし、出てくるかも知れません。何と言っても宝の木ですから・・・。

岐阜は木材の集散地。『岐阜は木の国、山の国』と言われる所以は、県土に占める森林の割合が高いことだけでなく、木材加工産業や木材流通業が発達していることも挙げられます。日本の国土の中央に位置し、陸送の中間点であることや海運・河川による木材輸送の立地的なメリットから木材集散地となったのだと考えられます。

岐阜県内には多くの原木市場が存在し、いくつかの市場に私自身も出入りしています。中でも岐阜県銘木協同組合の市は出色で、様々なことを考えさせてくれます。

木材は建築用材としては構造材と造作材に大別でき、どちらも木材には違いはありません。しかし全くの別物だと思ふのです。一般的な原木市しか知らない頃は、こんな考えを持つことはありませんでした。

構造材は汎用品であり、造作材は嗜好品である。汎用品である構造材は、性能・機能が第一義であり、それを満たした上でコストダウンが常に求められるもの。一方、造作材は嗜好品であり趣味嗜好により評価がなされるものであり、常にバリューアップが図られるものであると・・・。

汎用品である構造材のバリューアップがあるとしたなら、トレーサビリティによる地域材の地産地消くらいしかないと考えます。それとて過剰なアピールには首を傾げたいことがあります。例えば、「その土地に育った木で家を建てるのが気候風土に適している・・・。」などの、しばしば用いられる表現には科学的根拠はありません。

『木は木です。』全知全能・万能な特

別な物質ではありません。ただ、再生可能な資源であり、木材を利用することが環境負荷低減に寄与することは確かです。

日本の森林の半数が人工林であり、人工林は『植える→育てる→刈る→植える』のサイクルで二酸化炭素を吸収しながら再生資源である木材が育ち続けるのです。このサイクルを維持するために一番大きな役割を果たすのは、『木を使う』ことです。人工林の並材は普通に大量に使用されてこそ意義があるのです。

私は岐阜県銘木協同組合の市が好きです。様々な樹種、大きさ・長さ・形の原木が、それぞれ自己主張しているからです。また、買ひ方はトレーサビリティなどの木材の本質とは違う価値でなく、木材の本質的な価値のみを評価して自己責任で価格にします。木材を業として扱う私は『ノンクレーム、ノンリターン』の商取引の潔さを迫ります。

性能・機能と嗜好品の両輪があって、はじめて消費者の理解・支持が広がるというものです。汎用品と嗜好品の両方の魅力を語ることで、木材への理解・支持を図りたいものです。

木の机作りのご案内

毎年3月下旬に開催している「勉強机作り」を来年も開催の予定です。日時、内容については2月下旬頃ご案内します。ご家族で作る机は、市販品にはない手作り感があり、愛着が湧きます。入学準備に是非ご検討下さいませ。



本庄工業株式会社

本社

058-271-6527

ホームページ

<http://www.honjo-woodream.com>

森のすみか展示場

0120-89-5488

Email

info@honjo-woodream.com